



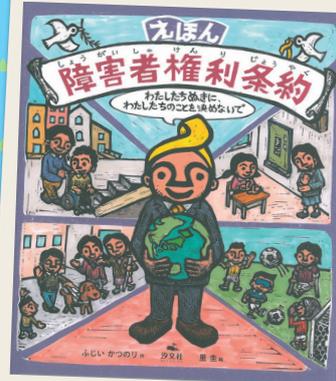
NPO発!活動によせる 想いを伝える絵本

楽しい絵、おもしろいお話で多くの人をひきつける絵本の世界。その利点を生かし、「こんな地域や社会になったらいいな」という想いを伝えるためにNPOがつくった絵本をご紹介します。



「減災絵本 リオン」

企画・制作：NPO法人防災士会みやぎ（仙台市）/ イラスト：庄司陽
幼い子ども向けに、地球の恵みと災害が隣り合わせにあることを分かりやすく教えてくれます。そこから、自然災害への備え、向き合い方について考えることができます。



「えほん障害者権利条約」

作：ふじいかつり / 絵：里圭
発行：株式会社汐文社
ふじいさんは、NPO法人日本障害者協議会（東京都）の代表を務めています。2006年に国連で制定された障害者権利条約は、現在約160カ国に広まっています。障がいのある人にも、障がいのない人と同等の権利を保障した条約の大切さや、めざす社会を分かりやすく描いています。



「そのこ」

企画協力：認定NPO法人ACE（東京都）/ 詩：谷川俊太郎 / 絵：塚本やすし / 発行：株式会社晶文社
遠く西アフリカのガーナでカカオを収穫している「そのこ」と日本にいる「ぼく」。それぞれの日常から、児童労働の問題について考えます。



「聴き書きぬり絵 千代田 いま・むかし」

企画・発行：NPO法人まちなびや（静岡県）/ 作画：たたらなおき
静岡市の千代田地区に長年住んでいる方々への聴き書きをもとに制作した、地域の今と昔を比べたぬり絵。楽しみながらまちの移り変わりを学ぶことができ、その記憶を次世代に伝えていくことを目的としています。

詳しくはたがさぽPressへ！
「NPOの絵本たち」【2016年3月10日（木）掲載】

ヒント from “たがさぽPress”
たがさぽのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ <http://blog.canpan.info/tagasapo/>

- 「子ども食堂」の取組 2016年2月9日（火）掲載
全国に広がりを見せている「子ども食堂」。経済的な事情などで十分な食事がとれなかったり、一人で食事をしている子どもたちを支えています。
- 世界各地と対話でつながる 2016年2月11日（木）掲載
テレビ電話を活用し、世界中の人々をつなぐ活動に取り組むNPO法人地球対話ラポ。互いの国の文化を知ることで世界が身近になる場づくりを行っています。
- 思い出のランドセルギフト 2016年2月25日（木）掲載
女性のいのちと健康を守るために活動している国際協力NGOジョイセフ。その一環として、アフガニスタンの子どもたちにランドセルを贈っています。

“たがさぽPress”とは？
たがさぽスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぽPressへ！ ＊ケータイ、スマホからご覧いただけます。



たがさぽからのお知らせ
たがさぽが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

たがさぽは地域情報の宝庫！

たがさぽには、NPO、町内会、サークルなどの情報が集まっています。「多賀城に引っ越してきたのだけど、何かおもしろそうなイベントや活動はないかな？」「町内会や子ども会の役員をすることになったので、他の取り組みを参考にしたい」そんな方に役立つ情報をそろえていますので、ぜひたがさぽに足を運んでみてください。



イベントや団体の情報が詰まっているチラシラック。
たがさぽに入ってすぐ右側にあります。

Let's check!



子どもたちのすこやかな成長のために 手づくり布絵本



約30年間にわたって、多賀城市立図書館で布絵本をつくる活動をしているサークル「ふえると」。今回は、活動場所におじゃまして作業の様子を見せていただきながら、メンバーのみなさんにお話を伺いました。

「はたらくま」のページ。消防車は取り外せて、自由に動かせます。



布絵本はいいことづくし

布絵本とはその名の通り「布でできた絵本」のこと。布絵本のいいところは、紙でできた絵本とは違って傷みにくく、子どもが間違っただけで口に入れてしまっても大丈夫なこと。壊れても直すことができ、汚れても洗えるので長く使うことができます。また、数を数えたりリボン結びを練習する仕掛けがあったり、キャラクターを動かして遊ぶことができるので、子どもが楽しみながら学ぶことができます。

子どもたちの喜びが私たちの喜び

「ふえると」の活動が始まったきっかけは、図書館で開催された布絵本づくり講座。代表の宮城さんはこの募集を見て布絵本を知ったそうですが、もともとパッチワークが好きで、つくった布絵本を自分の子どもに読んでもらいたいと思い参加しました。講座終了後、参加者の有志でサークルを立ち上げ、その後メンバーが入れ替わりながら現在は10人ほどで活動しています。これまで月1回の活動を積み重ねてつくってきた20数冊の布絵本は図書館に寄贈し、見て触れてもらうとともに展示会をしたこともありました。感想を書くノートを置いたところ、子どもたちから「楽しかった」などのコメントがありました。また、保育園や幼稚園にも貸し出して使ってもらい、とても好評だったそうです。「自分たちのつくった布絵本が、子どもたちに喜んでもらえることがとてもうれしい」と笑顔で話してくれました。



その大きさにビックリ!

「はらへんごあむじ」を持つ たがさぼスタッフ。



活動の様子。楽しくおしゃべりしながら、それぞれ担当のページをつくっていきます。



型紙にそって布を切り、ページに縫いつけていきます。

活動が生きがいに

活動をしていて大変だったのは、「継続すること」。一時期、引越しなどの関係でメンバーが5人ほどになってしまったこともあり、「続けるのが大変で何度もやめようと思いましたが、みなさんと一緒に活動しているからこそ、今も続けられているのだと思います」と、講師を務める佐原さん。また、「布絵本づくりは私の生きがいです」と話すメンバーの方は「ふえると」の活動以外でも個人的に布絵本をつくって、友人のお孫さんにプレゼントしているそうです。

今後、新しくなった図書館でも活動を続ける「ふえると」。メンバーのみなさんからは「布絵本に実際に触れて、子どもたちと一緒に楽しんでほしいです。また、興味を持った方は活動への参加をお待ちしています」という言葉をいただきました。

「ふえると」の活動に参加したい方、また興味のある方はこちらにご連絡ください。
022-368-2650 (宮城さん)



「tag」には、多賀城 (tagajo) の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ (価値) をつける、という意味が込められています。



「たがさぼ」ではツイッターもやっています。フォローをお願いします!
@tagasapo



「たがさぼ」ホームページはこちら
<http://www.tagasapo.org/>